

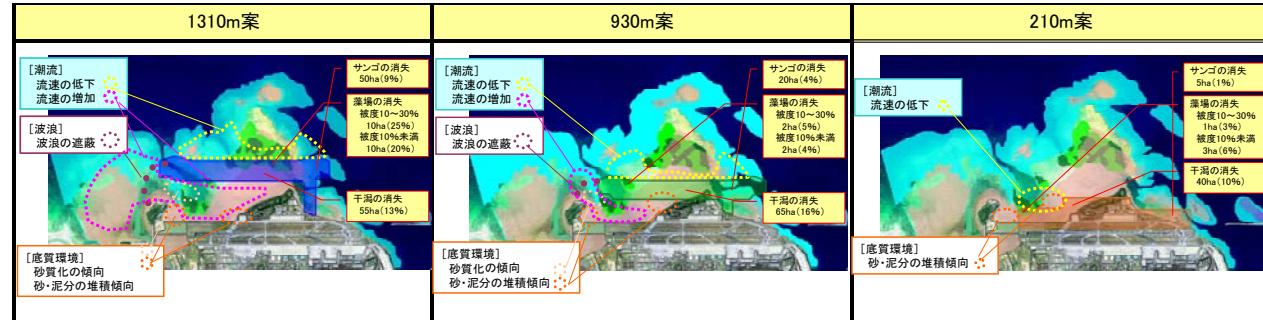
複数案の比較検討

平成20年 9月22日
内閣府 沖縄総合事務局

比較結果

			1310m案	930m案	210m案	備考														
評価視点	評価項目	評価の内容	<p>・日発着回数: 509回/日 ・2030年度時点の需要に対応可能</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">年平均日発着回数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">1310m案・930m案 : 509回/日</td><td style="text-align: center; padding: 5px;">210m案 : 415回/日</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">施設なし : 370~380回/日</td><td style="text-align: center; padding: 5px;">施設なし : 370~380回/日</td></tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 5px;">2000 2005 2010 2015 2020 2025 2030 年度</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">8月の日発着回数(参考)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">1310m案・930m案 : 509回/日</td><td style="text-align: center; padding: 5px;">210m案 : 415回/日</td></tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">343 348 348</td><td style="text-align: center; padding: 5px;">362 402 420 436 450</td></tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 5px;">2000 2005 2010 2015 2020 2025 2030 年度</td></tr> </tbody> </table>		年平均日発着回数		1310m案・930m案 : 509回/日	210m案 : 415回/日	施設なし : 370~380回/日	施設なし : 370~380回/日	2000 2005 2010 2015 2020 2025 2030 年度		8月の日発着回数(参考)		1310m案・930m案 : 509回/日	210m案 : 415回/日	343 348 348	362 402 420 436 450	2000 2005 2010 2015 2020 2025 2030 年度	
年平均日発着回数																				
1310m案・930m案 : 509回/日	210m案 : 415回/日																			
施設なし : 370~380回/日	施設なし : 370~380回/日																			
2000 2005 2010 2015 2020 2025 2030 年度																				
8月の日発着回数(参考)																				
1310m案・930m案 : 509回/日	210m案 : 415回/日																			
343 348 348	362 402 420 436 450																			
2000 2005 2010 2015 2020 2025 2030 年度																				
(1)需給逼迫	空港能力	将来需要への対応 ※一般的な空港計画では、完成後5~10年程度までの需要予測に基づき、規模を決定。	<p>・日発着回数: 415回/日 ・2030年度時点の需要に対応不可能</p>																	
	概算工期	準備工を開始とし、護岸工事、埋立工事、舗装等工事を経て完成に至る期間。(環境アセス等に要する期間は含まない)	約7年	約8年	※注1	約9年 ※注2														
(2)利用者利便性	利便性	予約環境 2030年の座席利用率を用いて、予約の取りにくさ	検討中	検討中	検討中															
	地上走行距離	増設滑走路に着陸してから、スポットインまでの地上を走行する距離	約3100m	約2200m	約1500m															
(3)事業効率	概算事業費	増設滑走路・連絡誘導路などの用地に加え、移転補償費、照明設備や付帯施設に係る整備費	検討中	検討中	検討中															
	社会経済効率性 費用便益分析	事業効率性を、当該事業の費用と受益者側の便益との比	検討中	検討中	検討中															
(4)地域全振興	地域振興	経済波及効果 入込み客增加に伴う県経済への経済効果	検討中	検討中	検討中															
	安全	リダンダンシー 1本の滑走路が利用できない場合、残りの滑走路が運用可能か	2本の滑走路が共に精密進入用で配置されることにより、1本の滑走路が閉鎖された場合でも運用が可能	2本の滑走路の内1本の滑走路が非精密進入用となるため、気象条件が悪い場合等には着陸できなくなる可能性がある																
(5)長期展望	長期展望	長期的な拡張(新たな需要対応、利便性向上等)への柔軟性	新たな航空ニーズ等将来への対応策として、現滑走路と増設滑走路との間に展開可能な空間が十分確保できる。滑走路間へのターミナル地域の配置が可能となれば、利便性及び空港能力の向上が図られる。	新たな航空ニーズ等将来への対応策として、現滑走路と増設滑走路との間に展開可能な空間が確保できる。滑走路間へのターミナル地域の配置が可能となれば、利便性及び空港能力の向上が図られる。	新たな航空ニーズ等への対応策として、増設滑走路の沖側に展開用地を確保することは可能。しかし、利便性及び空港能力は、滑走路増設後とほぼ同じ。	2														

比較結果



評価項目	評価の内容																																					
大気環境	航空機騒音	航空機による騒音影響	沖側に滑走路を増設することから、発着回数の増加に伴う顕著な影響はみられない。																																			
社会的環境	人と自然との 触れ合い活動	瀬長島の利用可能性	制限なし																																			
	大嶺崎周辺区域の利用可能性	現状と変わらないが空港用地内で制限あり	空港用地となり一部利用不可																																			
	歴史的・文化的環境	瀬長島への影響	変更なし																																			
	大嶺崎周辺区域への影響	変更なし	拝所1箇所及び大嶺部落跡改変有り																																			
	自然環境の評価ランク	沖縄県が定めた「自然環境の保全に関する指針」の評価ランク1にかかる面積	約50ha																																			
水環境	景観	新設滑走路を配置した際の景観への影響を検討。	大嶺崎から沖側に滑走路が増設され、水平線向きの眺望景観が変化する。																																			
	潮流	滑走路増設の埋立に伴う潮流の変化を検討。	配置案の沖側で流速の低下が見られる ・瀬長島と配置案の間で流速の増加が見られる ・瀬長島の南側で流速の増加が見られる																																			
	水質	滑走路増設の埋立に伴う水質の変化を検討。	瀬長島から大嶺崎にかけての範囲で陸域からの流入負荷がないことから、水質(COD)については、現状(1.5mg/L程度)との大きな差はみられない。																																			
	底質	滑走路増設の埋立に伴う底質の変化を検討。	流速や波浪の変化に伴い瀬長島と増設滑走路の間で砂質化、瀬長島北側や大嶺崎南側で砂・泥の堆積傾向が懸念される。																																			
生物の生息場	波浪	滑走路増設の波浪に伴う波浪の変化を検討。	現状で卓越している北北西の波浪が、遮られる。																																			
	埋立面積	約150ha	約140ha																																			
消失面積	消失面積	サンゴ、藻場[被度10~30/10%未満]、干潟の消失面積について検討。	約50ha																																			
		<table border="1"> <caption>サンゴ/全分布面積約560ha</caption> <tr> <td>1310m案</td><td>50</td><td>510</td> </tr> <tr> <td>930m案</td><td>20</td><td>540</td> </tr> <tr> <td>210m案</td><td>5</td><td>555</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>藻場/全分布面積約90ha</caption> <tr> <td>1310m案</td><td>10</td><td>10</td> </tr> <tr> <td>930m案</td><td>2</td><td>2</td> </tr> <tr> <td>210m案</td><td>1</td><td>3</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>干潟/全分布面積約410ha</caption> <tr> <td>1310m案</td><td>55</td><td>355</td> </tr> <tr> <td>930m案</td><td>65</td><td>345</td> </tr> <tr> <td>210m案</td><td>40</td><td>370</td> </tr> </table>	1310m案	50	510	930m案	20	540	210m案	5	555	1310m案	10	10	930m案	2	2	210m案	1	3	1310m案	55	355	930m案	65	345	210m案	40	370									
1310m案	50	510																																				
930m案	20	540																																				
210m案	5	555																																				
1310m案	10	10																																				
930m案	2	2																																				
210m案	1	3																																				
1310m案	55	355																																				
930m案	65	345																																				
210m案	40	370																																				
生態系	生態系每消失面積	<table border="1"> <caption>サンゴ礁/全分布面積約680ha</caption> <tr> <td>1310m案</td><td>45</td><td>635</td> </tr> <tr> <td>930m案</td><td>25</td><td>655</td> </tr> <tr> <td>210m案</td><td>5</td><td>675</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>礁池/全分布面積約530ha</caption> <tr> <td>1310m案</td><td>105</td><td>425</td> </tr> <tr> <td>930m案</td><td>105</td><td>425</td> </tr> <tr> <td>210m案</td><td>15</td><td>515</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>砂質干潟/全分布面積約90ha</caption> <tr> <td>1310m案</td><td>1</td><td>89</td> </tr> <tr> <td>930m案</td><td>10</td><td>80</td> </tr> <tr> <td>210m案</td><td>25</td><td>65</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>泥質干潟/全分布面積約50ha</caption> <tr> <td>1310m案</td><td>0</td><td>50</td> </tr> <tr> <td>930m案</td><td>0</td><td>50</td> </tr> <tr> <td>210m案</td><td>0</td><td>50</td> </tr> </table>	1310m案	45	635	930m案	25	655	210m案	5	675	1310m案	105	425	930m案	105	425	210m案	15	515	1310m案	1	89	930m案	10	80	210m案	25	65	1310m案	0	50	930m案	0	50	210m案	0	50
1310m案	45	635																																				
930m案	25	655																																				
210m案	5	675																																				
1310m案	105	425																																				
930m案	105	425																																				
210m案	15	515																																				
1310m案	1	89																																				
930m案	10	80																																				
210m案	25	65																																				
1310m案	0	50																																				
930m案	0	50																																				
210m案	0	50																																				
周辺環境	埋立材の確保	大規模な埋立工事のため、埋立材確保の難易度(必要土量)を検討。	約1,000万m ³																																			
			約1,300万m ³																																			
			約200万m ³																																			
総合評価		検討中	検討中																																			
			3																																			